

細い縮れ麺の十文字中華

「ぽっぽの湯」食堂で新企画提供

長沼温泉「ぽっぽの湯」の食堂で、新企画の特別メニュー「十文字中華そば」が話題を呼んでいます。

庄内日報5月22日付で紹介されました。

懐かしい中華そば

細い縮れ麺で、食べた人は昔懐かしい中華そばを思い出すと言っています。

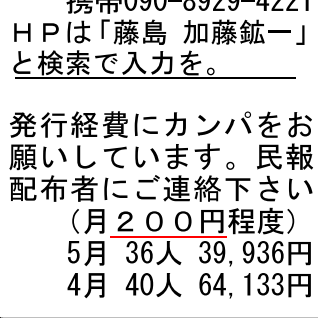
ここ庄内のラーメンの多くは太麺で、味を滲みらせるためにコツテリした出汁になっています。

しかし十文字麺は細麺なため、あっさりとした薄味で麺に滲み、ヘルシーさが特徴です。当面、「十文字」の十のつく日に限定して20食を提供。

通常の麺より仕入れ価格がやや高めとのことですが、当面は550円で提供することとです。

十文字伝承

地元長沼地区の十文字集落は、開発記念樹（写真）の由来書によれば、秋田の平鹿郡十文字町（現在は横手市）から最上川南に新天地を求めてやってきた斎藤



民報HP



藤四郎左衛門・忠左衛門・源助によって1645年（正保2）開発され、その故郷にちなむ地名とあり、伝承されています。

秋田県十文字の「こ当地ラーメン」が、十文字つながりで「ぽっぽの湯」で食べられるとあっては、ラーメン好きの庄内人がどう評価するか楽しみです。

十文字中華そば提供日

5月30日(日)
6月11日(金)
(9、10日が休館のため)

6月20日(日)
6月30日(水)
「ぽっぽの湯」食堂

降霜被害の庄内柿 2回目〜6回目の防除は確実に

長沼・八栄島地区の庄内柿が降霜被害で「壊滅」状態ですが、藤島・上町の石川勝雄さんも、ほとんど芽が出ないと言っています（写真）。



農協によれば、1樹ごとに被害程度を確認し、被害中度の場合は摘蕾をせず、奇形果を確実に摘果で対応する。重度の場合は、着果がなくても新梢が出て展葉するので、病気や害虫の抑制のために、2回目〜6回目の防除は確実に行うとされています。

被害農家は収穫が見込めなくても資材費がかかり、行政や農協の支援が必要です。

月山とわたし 6

加藤貞雄（山王町）

■岩にまたがって

限りなく続く山並みが雲の中に溶け込んでいく。尾根の上に立てば西側に庄内平野が望めるのではないか、その尾根までは割合近いようだ。そう思うと近くに人がいないのを見計らって道端に張られている進入禁止を示すロープをくぐって、思い切って尾根の方へ向かって進んだ。

やぶを漕ぎ、いくつかの岩を越えて低いハイマツに覆われた尾根に辿り着いたときには、「ワアー」と思わず歓声が洩れた。

雄大な眺望！ 尾根の上をさらに進んで先の尖った小山に登る。その先端は格好の岩場で、それにまたがり、はやる心を抑えてスケッチブックを開く。

眼下に青みがかった庄内平野がはるかに広がり、その果てに母狩山から金峰山、庄内砂丘へと連なる細長い帯が霞んでいた。

平野に散在する無数の集落、頂上から湯殿山方面へとのびる尾根

と沢の入り組んだ複雑な地形、その谷間にしがみつくような姿の残雪。

すぐ足下は急峻な崖となっていて見えない。遠くに朝日連峰の山並みが青く重なる。山稜を這うように霧が流れていく。

山頂に向かって尾根が走り、岩が立ち、草原が起伏し、その向こうに残雪が光る。

壮大なパノラマ、ボリュウム感あるれる山容、やさしいが確固たる存在感。私はそれら一つ一つを確かめるように、心に刻むように描いた。

著名な登山家にして作家の深田久弥は、名山の基準として山の品格と歴史性と個性の3つを挙げているが、月山はまぎれもなく名山に値すると思った。

足から吹き上げてくる風は強く、片手でスケッチブックを押さえながら描く。合間に握り飯をほおばりながら眺めを楽しんだ。長い間の勤めで固くなった心身の緊張のしこりが徐々に解れていくのを覚えた。



午後も半ばを過ぎていた。再びブッシュをくぐり抜けて本道に戻る。夜はどのあたりにシエラフを敷こうか、星は見えるだろうか、星は見えるだろうかなどと思いつつ登った。（つづく）

紫陽花

紫陽花

城貞（藤の花）

鳥葩庭除至歆加
百轉千声燕子諱
細雨如糸沾服湿
錢春華綻紫陽花

鳥葩庭除至歆加
百轉千声燕子諱
細雨糸の如し服を沾して湿す
錢春華綻紫陽花

晩春になり、鳥や花が庭に、多く見られるようになり、ますますこの上ない喜びで一杯である。
燕の子供が、餌を求めて、騒がしい声を上げて、にぎやかである。
糸のような雨が、しとしとと降り、服を濡らす。
春の花（梅・桜・桃）も見られなくなり、去り行く春を送り、やがてアジサイの花が綻び始めた。



紫陽花||アジサイ。葩||はな。庭除||庭。至歆||この上ない喜び。加||さかんになる。百轉千声||百、千と大きい数が多いことを言う。さわがしく。燕子||ツバメの子。諱||さわがしい。細雨||霧雨。沾||ぬれる。湿||しめる。錢春||去り行く春を送る。華||花。綻||花が咲く。

※訂正…民報5月16日号の2面中、右上見出し「新倉山」は「荒倉山」の誤り、上段左から3行目の「横道利」は「横光利」の誤りでした。
お詫びして訂正します。

世界の国々

チリ

リチウム生産量・埋蔵量で世界一 青山崇

南米大陸アンデス山脈西麓に位置し、北はベネゼエラから南端マ

ゼラン海峡までの南北4000km（日本の倍）東西平均175kmの細長い国で、ほぼ中央に首都サンチャゴ（550万）がある。

面積は76万km²で日本の約2倍、人口は1895万人である。

アンデス山脈は貴重な鉱物の金・銀・銅・鉛などが多量に埋蔵されるが、金・銀はスペイン植民地時代に掘り尽くされた。

チリでは、銅が20世紀になって、北部のチ

ユキカマタで世界最大の露天掘り銅産出が行なわれ、経済の重要な柱となっている。
さて表題のリチウムである。

リチウムイオン電池として携帯電話やハイブリッド自動車、電気自動車などの需要が急速に増加し、さらなる増加が見込まれる。

一方リチウム資源は2007年の資料で世界の約3/4がチリに埋蔵しており、生産量もチリは38%を占めるという偏在・寡占状態



（チリ、リチウム産出のアタカマ塩湖）



早く中止の決断を

どうなつてんだや。何度聞いても首相は同じ応えだぜ。安全安心を言っているけれども、

具体性がないんだヨ。

これで五輪を開いたらどうなるのか・国民の心配は尽きないでしょう。正に、世界中からコロナを集める事になるだけでしょから。

▲今ですら、ベッドが足りなくて医療が受けられず、家で亡くなる気の毒な人が連日出ている状況だぜ。これが何万という世界中の方々を「オモテナシ」出来る状況ですか。だから、各国から「早く中止の決断をしろ」との声が出てきているんですよ。日本の今の状況が見えるからネー！

▲緊急事態宣言の県の数がいつ減るんでしょうか。沖繩が新たに加わったようだし。国は宣言をいっただけで何も

やっていないでしょう。飲食店の営業時間の短縮をお願いするだけでは、限界じゃないの。十分な補償をして完全に休める状況でないと、飲食店を狙っても減らないと思いますよ。

▲一方ワクチンの方が、インターネットを使えないもんだから電話で頑張ったんだが、繋がらず無駄だった。薬は十分あるからと言いながら、すぐに満杯だったでしょ。俺は、かかりつけの医者で受けることに決まっって一安心だが、全体で五輪前に一回目が終わるんですか。一日一〇〇万回の接種なんて数も、政府の発表は信用できないからネー。

▲マスクなしでよい国があるのに、日本は3〜4%という接種率。「早く中止の決断」を求められる原因でしようナ。決断できるのは、国民の命に責任を持つ首相ですヨ。（石川）

